

第45回日本ストーマ連絡協議会 議事録

日時：2020年7月28日(火)17：30－18：30

場所：コロナ禍により、zoomでの開催

進行：ストーマ用品セーフティーネット連絡会 当番幹事 株式会社 ホリスター

議事：ストーマ用品セーフティーネット連絡会 副当番幹事 コロプラス株式会社

参加(敬称略)：JSSCR－前田 耕太郎、幸田 圭史、後藤百万、靱山こずえ

JWOCM－田中秀子、松原康美

JOA－谷口 良雄、木下 静男、川村 正司

OAS－西村 敬、秋葉晃子、中村早苗(進行)、内藤寿真子、シディキ佐衣子
(議事)、合計14名

1. 活動報告

1) JSSCRより

幸田： 7月17日に定例理事会を実施、以下が話題として挙げられた

- ① このところの大雨による災害救助法適用地域が増えてきているが、様々な分野で協力、情報を得られてきている。OASの協力にも感謝。(詳細は靱山さんから説明)
- ② 新型コロナによってストーマ装具を急いで購入する等余分な買い込みを防ぐようウェブにて注意喚起を実施
- ③ 大腸肛門学会とともに主催するストーマリハビリテーション講習会の受講者が4000人以上となり、今年40周年を迎える。現在記念誌を編集発行する予定。今後各メーカーにも配布・購入を依頼

靱山： ①7月3日からの大雨災害で災害救助法適用となった8県67市町村に関して、連絡網にある各県代表に連絡。災害・支援状況を確認したところ熊本のみ支援が必要と判明。済生会熊本病院の山形WOCNと相談、結果、ライフラインも寸断されず、被害も限定的であることから、個人への支援という形で実施。

販売店による安否確認に続き支援が開始され、7月10日の時点では24件、その後8件の報告を受け、現在約30名程に支援。また避難所にも物品を手配し、装具が必要な方向へのチラシを貼付した。販売店から郵送、医療機関での手渡しおよび郵送を行った。近隣4施設にはオストメイト対応トイレを開放して装具の交換場所も設置され、アクセサリーも配置した

現時点で安否未確認の方は7名

全般的に2016年の熊本地震の教訓が活かされており、円滑であった。

②新型コロナに関しては、4月に装具がなくなる不安による買い込みが見受けられるとの販売店からの報告により、各社工場の運営が止まる状況ではない旨を伝えた。また評議員からの提言により、「新型コロナウイルス蔓延に対するストーマケア時の対応指針」を作成・掲載した

2) JWOCMより

田中： JSSCRからの情報をJWOCMにも共有、JWOCMの災害対策委員も各都道府県に1名ずつ代表がおり、何かあれば連絡するよう要請、現段階で特段の報告はなかった。熊本地震の際は1人の認定看護師に情報が集中してしまったため、情報を分散できるよう、JSSCRからの情報は下位に流していった。

新型コロナに関して、ストーマ外来では密になる機会も多いため、JSSCRの指針を参考に対応をホームページに掲載した

以前より、災害対策については、JSSCRの災害対策の旧委員の大村さんと、自分たちとのレベルで非公式に情報交換をすることにしたので、今後も靱山さんにはご協力をいただきたい

- 靱山： 各都道府県担当が不在のところもあるため、是非情報を共有していきたい
- 田中： 今年 JWOC の学会を、7/23、24 オンラインにて実施。特に問題もなく、事前登録した方限定ではあるが、講演内容を学会終了後も8月9日まで公開している。直接参加だと、時間が重なり聴講できないセミナーも、オンラインならば時間関係なく両方聴講できるため、意外と良い面がある。今年いっぱいこういう状況が続くかと思うので、今後はオンライン用の規約も作っていく必要があるのかと感じている。実はその直近開催した学会の大会長が、JWOCM の災害対策委員長でもあったため、災害時期と学会開催時期がかぶり多忙により、災害対策については JSSCR に依存した部分もある
- 松原： 装具の買い込み防止に関しては、JSSCR と同様、医療従事者向けのインフォメーションとして、注意喚起をホームページに掲載した

3) JOA より

- 谷口： ① 両学会には講演を依頼していた、6月20日・21日札幌での全国大会は新型コロナにより中止とし、6月20日に田町で定時理事会のみ、体温確認など万全な体制を取って実施した
来年の全国大会は6月12日・13日に山口県山口市で開催予定。新型コロナで様子はまだ見通せないが、安全を担保された形で実施したい。少なくとも9月の理事会で方向性は付けたい
- ② コロナ禍での装具安定供給については、4月7日要望を各メーカーに提出。各社問題ないとの回答があったので、買い込みに関する注意喚起を5月会報に掲載。
現在の各支部の活動は止まっており、恐らく秋口までこの状態は続く。イベント開催についても、参加人員を減らし活動を縮小せざるを得ない
- ③ 災害については、OAS の対応がある旨の情報提供は各 JOA 支部へ流している。熊本県人吉市では会員2名が今も連絡が取れていないが、報道先行から考えて、避難所にいると推測している。最近の台風・豪雨は週末が多く、週明けまで OAS とは連絡が取れず、まずは各支部長には連絡をしている状況。
OAS の災害対策マニュアルを検索すると、JSSCR の HP では更新されているが、OAS の HP なのか、一部古いもの（村中医療器がメンバーとなっている）が表示されるので修正希望。
- 中村（OAS）： OAS としての HP はないので、別な HP かと思われるが、JSSCR 様のページを参照してください。

4) OAS より

- 中村： ① 昨年の3つ災害救助法適用地域に関しては、大雨による災害で2名の方に35,200円、台風15号では補償無し、台風19号では37名の方に400,030円の補償を行った
- ② 今年度の大雨災害に関しては、まずキムラさんが問題なく営業されていることを確認、熊本地震からの学びでスムーズに運営されていた。大手販売店が通常通り営業できていることを確認し、靱山先生、松原先生とご相談し、浸水被害など手引き通りの支援を実施することを決定した
- ・ハサミはソルブ、およびコロプラスの了承を得て補償の対象とすることにした
 - ・昨年の台風では災害後1ヶ月という時間の区切りが守られなかったため、今回は期間をメーカー間で認識。これから販売店さまに聞き取りをして集計予定である
 - ・マニュアルが周知されていない部分もあるので、メーカーのエリア担当者から販売店に説明すべきではと感じている

前田： 関係者が細かく対応されていて、ネットワークがきちんとできてきている、継続していけば目指した形になるのではと感じる

靱山： 熊本での課題として、無償提供は従来販売店からが主だったが、今回はコロナ禍であること、県も柔軟に対応されたために、近隣施設に取りにきてもらう・郵送してもらうケ

一スも多かった。学会では郵送料が補償対象ではないので、補償をどうするか検討してもらいたい。災害の地域で使用できる基金は作れないか？

前田： 金銭的課題はすぐに解決できないと思うので、検討が必要。メーカーも用品等で既に負担しているので、郵送料までの負担は求められない。

靱山： 学会というよりはこの団体で基金を持った方が使えるのではないかと。会費を積み上げていければ良いと思う

田中： 東日本大震災では、JWOCがスキンケア製品担当、褥瘡学会が除圧マットレスを担当することになり、自分は褥瘡学会担当だったため、このマットレスの送付に、交通網は止まるし大きいので、メーカーに運送を手伝ってもらい難渋した。当時基金はなく、その経験から、その後学会で基金を作ったがほぼ使っていない

靱山： 今回のように施設からの使用者への配布が、特に大都市圏では主流になるのではないかと。基金の設立・運用を考えたい。JSSCRでもJWOCMでの事例を共有しようと思う

前田： お金も集めないといけないけど、靱山さんから見てどういう物が必要かもリストアップして議論しましょう

田中： 東日本大震災の時は、JWOCMでは、認定看護師が災害地に支援に行くための交通費サポートの要望があったので学会が集金したが、看護協会との話し合いで災害スペシャリストが先に派遣され、認定看護師の派遣が遅くなり、お金は使われなかった。基金の使用目的が何かもはっきりしておくなど、色々検討が必要

幸田： 学会としての立ち位置（どこまで支援するのか）を決めるため、靱山さんにはまずは意見を集約して、この場で提案をお願いしたい

次回：2020年11月17日（火） 17:30～ホリスター本社会議室、もしくはzoomにて